

2019. 9. 14

畑 啓之

大相撲に見る「負の連鎖？」 食い違った歯車は心理の波を通して伝播する？

政治の世界でも、経済の世界でも、一つの事象が遠因となりその影響が思いもよらぬところに波及することがある。特に現代社会は複雑であり、まさに物理学でいうところの「複雑系の科学」である。

昨日は夕方6時の来訪者を待つしばしの時間をNHKの大相撲観戦とした。5時半までの取組は特に波風なしの平穏なものであったが、異変は私の目の前で起こった。

最初の異変は遠藤－貴景勝戦で起こった。あの好調だった貴景勝がつき膝で敗れた。なぜあの段階で急に膝から落ちるのか？ 骨折？ 過去の休場もあり、誰しもそんなことを思っただろう。その時にはわからなかったが、本日の日本経済新聞に「貴景勝 行事に泣く」とある。そうだったのか。

つづく朝乃山－豪栄道戦では、上手投げで両者が土俵から落ちる前に、行事の木村玉治郎が見事に頭から土俵下に転落し、その勝負を見極めることができなかった。式守伊之助が土俵下で立ち上がり、その勝敗を見届けたのはさすがである。

ところが、である。その式守伊之助も続く玉鷲－栃ノ心戦で見事な行事差し違いを演じた。おそらくは誰の目にもその勝敗は明らかであったと思うのだが、木村玉治郎のめったに起こらない事象からの心の動揺からだろうか、イージーミスを犯すことになった。

そして、結びの一番。大栄翔－鶴竜。この勝敗には行事は関係していないが、実にあっさりと横綱が押し出しで負けた。この勝負は大栄翔をほめるべきだろう。

めったに見られない、裏方であるはずの行事が表舞台に登場する大相撲を鑑賞することができた。政治の世界、会社の経営もそうであるように、どこかで小さな渦が生じると次第にその渦が成長し、気が付いたときにはそれが取り返しがつかない事態にまで発展していることがある。昨日の出来事は、この渦が行事の心理を通して伝わり、それが結果として表出したものかもしれない。めったに見ることができない、別の次元での大相撲中継を楽しむことができた。同時に心のタフネスという言葉が心に浮かんだ。

